

令和3年度第3回松戸市立博物館協議会 会議録

日 時	令和4年3月19日（土）14時～15時30分
場 所	松戸市立博物館 実習室
出席者	<p>（委員）</p> <p>委員 西郡 泰樹 委員 大西 一樹 委員 山口 恵理子 委員 岡田 啓峙 委員 百田 清美 委員 濱島 正士 委員 小島 孝夫 委員 日高 慎</p> <p>（事務局）</p> <p>生涯学習部長 渡部 優樹 博物館館長 望月 幹夫 博物館職員 8名</p>
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画（案）について 2. 博学連携展示・こどもミュージアム「松戸探検 100年前からのくらしのうつりかわり」内覧
公開 非公開	公開（傍聴者0人）
配布資料	<ol style="list-style-type: none"> 1. 会議次第 2. 資料 松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画（案）別冊①資料編、別冊②こどもミュージアム基本計画（案） 3. 当日資料 前回協議会時の計画との変更点について 4. 展示関連 博学連携展示チラシ、こども用ワークシート

1. 松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画（案）について

～資料に基づき、事務局より説明をした。～

委員：松戸市の歴史的・文化的特徴（松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画（案）P4）に、近世の水戸街道と松戸の宿場町、小金の宿場町を是非載せてほしい。

委員：事業目標 3（松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画（案）P31）の具体的な取組③、市内高校・大学との連携は、新たな取組として考えていることはあるか。

事務局：現在検討している内容としては、ワークショップなどの連携からはじまって、大学側としては大学のカリキュラムに入れ込むことなどが考えられる。

高校とは、インターンシップの受け入れ、中学校では、職場体験の受け入れなどが実績としてあげられる。

委員：論文を書けるようになるために、小学校—中学校—高校—大学へとステップアップできるように補助やサポートしてもらったり、活用できる資料などを博物館などから提供してもらえともっと良いのではないかと思う。

委員：もっと児童・生徒に博物館から働きかけてはどうか。博物館アワードなどはもっと広げていくのか。

事務局：博物館アワードは十分な周知 PR の結果、応募数が年々増加し、またクオリティもどんどん上がってきている。

委員：こどもたちの中では、「歴史」や「自然」、「文化」などのカテゴリがあるわけではなく、すべてが繋がっている。歴史的なものだけではなく、自然的なものも一緒にもっと知ることができると良いと思った。この時代の自然はこういうものだったなど。

事務局：おっしゃるとおりで、例えば総合展示室の縄文時代のコーナーに

は、「丸木舟」を展示しているが、これを海でつけたことがなかなかわかりづらい、イメージしづらいので、それを補足するような手法を検討していく。

委員：松戸市立博物館の現状と課題（松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画（案）P6）の中で、(4)利用者の現状の中にある、デイサービスは、放課後デイサービスのことを指しているのか。

事務局：こどものデイサービスではなく、高齢者デイサービスのことを指している。

委員：デイサービス（高齢者）などと表記しても良いのではないのか。

委員：松戸の歴史について、もっと身近に聞けるような仕組みを構築してほしい。デジタルも活用して、身近に聞けて、博物館が感じられるようになると非常に良いと思う。博物館になかなか声が届かない。

事務局：実際は、メールや電話、直接来館された方からなどの問い合わせが数多くきている。その質問・回答内容は記録し、管理している。

委員：博物館へのアクセスは、どうなのか。

事務局：21世紀の森と広場の東駐車場から博物館へと誘導するが、まだまだ分かりづらい部分もあるため、今後の課題として考えていく。

委員：PRについて、もっといろんな方法でやっていくべきではないか。色んな施設や団体へ協力要請ができるのではないかと思う。

事務局：現在では、3館での連携したPR方法や、HP、SNSで周知PRし、進めている。今後、より一層様々な方法について検討していく。

委員：計画はできあがったが、今後、実際に進めていくことができるのか。地域との連携とあるが、博物館をバックアップできる支援団体などを検討し、全面的に協力できるような体制を構築すべきである。

また、体験事業が少ないと感じている。支援・協力団体を構成し、もっと体験事業などを増やしていくべきである。

委員：計画策定は、令和4年度末ということによろしいか。

事務局：そのとおりである。

委員：博物館に共通して言えることだが、知りたい情報がなかなか得られない。先ほど出ていたが、質疑の内容などをオープンにできる範囲で、公開してはどうか。スケジュールや今後の取り組んでいく事業なども本協議会で議論していくべきだと考える。進捗状況の報告などもお願いしたい。

委員：パブリックコメントについて、格好だけのものではなく、きちんと論点を明確にして、意見を聴取すべきだと考える。批判ができるような内容で実施しないとなかなか意見はでないと思う。

計画のどの部分を重点的に問いたいのか、精査した上でパブリックコメントに諮るべきだと考える。

パブリックコメントの内容について、本協議会で提示してほしい。

2. 「博学連携展示・こどもミュージアム「松戸探検 100年前からのくらしのうつりかわり」内覧

委員：たくさんの工夫が見られてよかった。

委員：ワークシートはどのくらいのこどもたちがやっているのか。

事務局：学校見学を除いて、800部以上は配布でき、取り組んでもらえている。

委員：細かな情報が展示資料の付近にあってよかった。

委員：こどもたちには、現在生きているものと繋がっているものの視点から見学してもらおうようにしている。今一昔がのつながりが、博物館側で提供してもらえると良い。

委員：昔は大変だった。ではなく、どのように工夫し、乗り越えていたのか。そういった視点から見学してもらおうようにしている。

3. その他

新年度の第1回博物館協議会は、例年5月～7月頃に開催している。改めて新年度に、委員の皆様にご連絡差し上げ、日程調整させていただく。